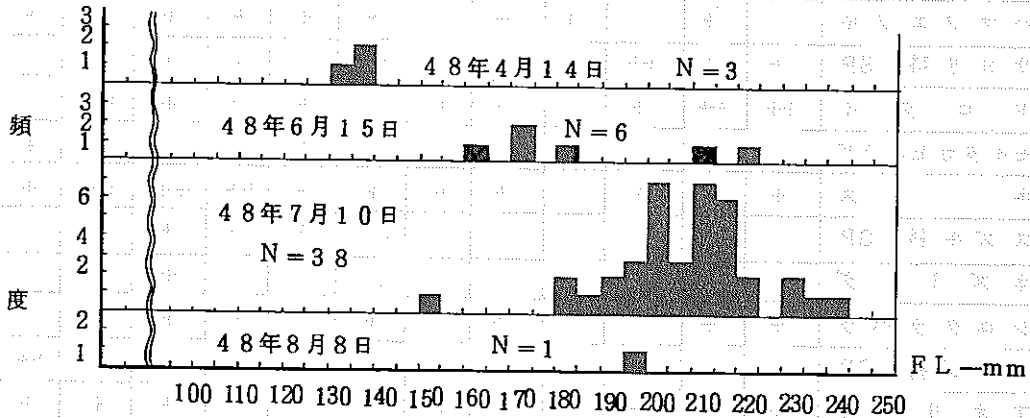


図一八 中城湾に於けるハマフェキ当才魚の体長組成



図一九 中城湾に於けるハマフェキ1才魚の体長組成

Ⅲ 幼魚分布海域の環境

1) 混獲魚種

南風原漁協の建干網を2統、標本船として抽出して、その漁獲物について混獲魚種の調査を実施した。建干網で漁獲された漁獲物は、魚類32種（アジ科・スズキ科・チョウチョウウオ科には数種が含まれており、実際の種類数は40種以上である。）頭足類2種、カニ類1種が混獲された。その内最優占種はアイゴであり、次いで、ドロクイ、サヨリ、キス、ハマフェキとなっている。これらの魚種はほぼ周年混獲されている。その他、アオリイカ、シロクラベラ、甲イカ、クロダイ等が周年混獲される。

ハマフェキ幼魚の成育場であるこの海域では他の混獲魚種より優占種とはなり得ないが5月～7月に1才魚及び、10月～12月に当才魚の混獲割合が多少増加することがみられる。

表-2

建干網で漁獲された混獲魚種とその季節変化

年月 混獲魚種	49年 1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
タチウオ		+							+	++	+	+
トウゴロウイワシ										+		+
グルクマ										++		+
アジ科 SP								+		+		+
アイゴ	+++	+++	+++		+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++	
ヒメアイゴ								+	+	+		
クロサギ	+	+	+						++	++		+
ボラ										+		
ヨスジフェダイ										+		
コチ										+		
クロダイ			++		+	+	++		++	++		+
ヘダイ										+		
ハマフエフキ		+		+	+	+	+	+	+	+	+	+
サヨリ科 SP	+	+	++		+	++	++		+	+		
ドロクイ	++	++	+		+	+	+	+	++	+	++	
セイタカヒイラギ								+		++		+
キス	+	+	+		+	+	+	+	++	++	++	+
スズキ科 SP								+	+	+		
ネズミフグ										+		
シロクラベラ	+	+			+		+		+	+	+	
ヒメジ科 SP								+	+	+	+	++
アオリイカ	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+
甲イカ	+	++	++		+	+			+	+	+	
チョウチョウウオ科SP						++	++	++				+
カマス科 SP			++							++	+	+
タカサゴ科SP										++		
イトフエフキ										+		
シモフリフエフキ										+		
オキセミホウボウ										+		
ツバメコノシロ												+
アカヤガラ												+
メジナ科 SP												+
スミツキエビス												+
ヒトスジタマガシラ	++											
ガザミ												+

2) 幼魚生息域における植物相の季節的消長

幼魚の成育場である南風原沿岸の水深2 m以浅海域、泡瀬南の3 m以浅海域及び知念村志喜屋の1.5 m以浅海域で潜水及び徒歩による調査を行った。調査結果を表一3に示した。

採集された海藻は、緑藻類17種、褐藻類8種、顕花植物3種の計32種が出現した。季節的消長をみると、夏期には、南風原沿岸でセンナリズタの分布量が最も多く、藻場を形成する。この海域の表層の底質は砂、礫で占められる。次いでホンダワラ属の分布量が多く、岩礁帯及びサンゴ礁海域に藻場の形成がみられる。

泡瀬南側海域では、潮干帯にイソスギナ群落、2~3 m海域では、リュウキュウスガモ、マツバウミジグサ等の顕花植物の群落形成されている。

この海域の底質は荒砂、礫で形成されている。

知念村志喜屋沿岸での夏期の調査は実施していないが、聞き取り調査によると、夏期にはセンナリズタの群落形成されるようである。冬期には、南風原、志喜屋沿岸はカゴメノリ、フクロノリ主体の群落形成される。その他南風原沿岸の潮干帯には、アオサ属、アオノリ属、ヒトエグサ等の出現がみられた。また夏期に分布量の多かった、マツバウミジグサ、ウミヒルモ等はかなり減少している。志喜屋では、イソスギナ、フデノホ、カサノリ、アオサ属、ハバノリ(岩礁帯)、イバラノリ等の出現がみられた。

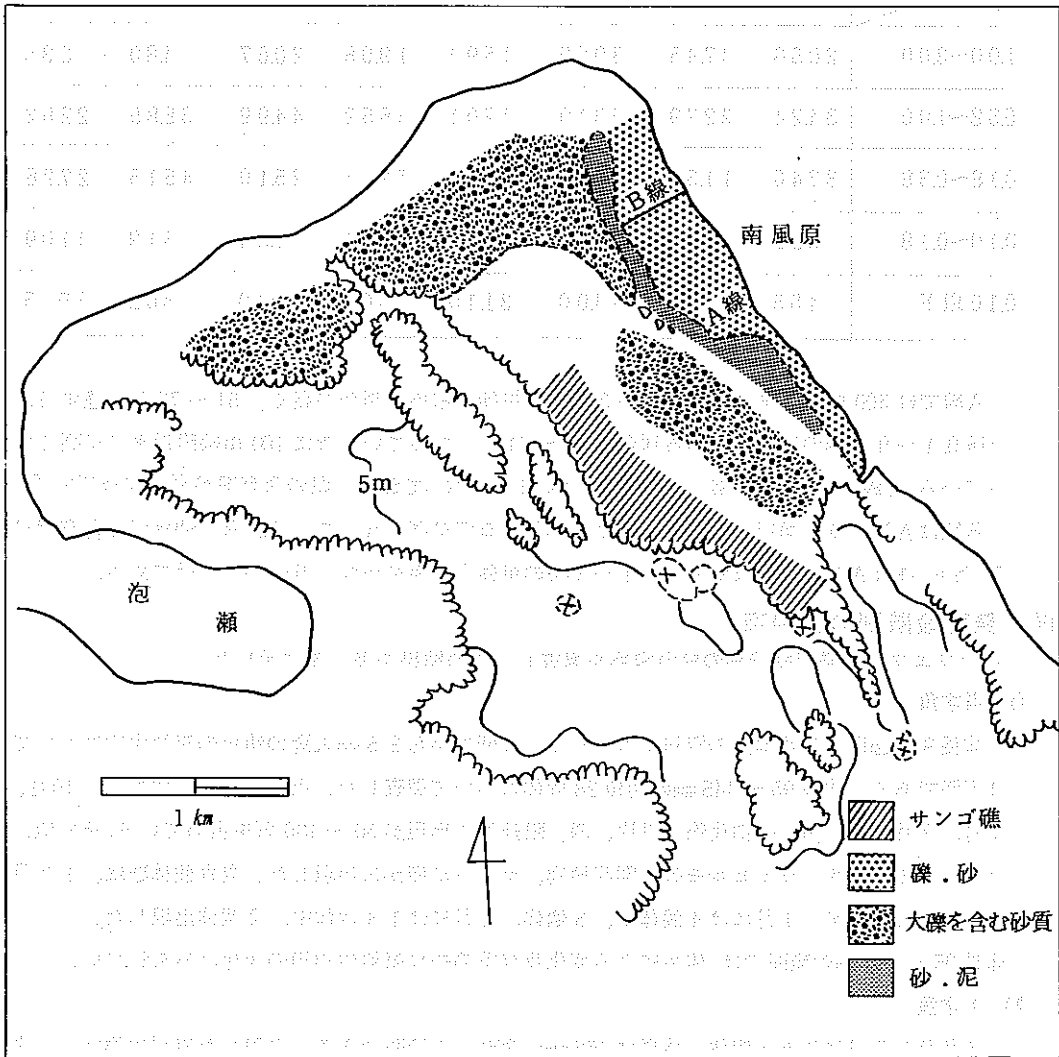
表-3

幼魚採捕地点における海藻分布

採集場所	南風原	南風原	泡瀬南	知念村志喜屋	
採集月日	7月11日	2月19日	7月29日	2月23日	
水深範囲	0~1.5m	0~3m	2~3m	0~1.5m	
底質	細砂、礫	細砂、礫	砂、礫	砂礫、岩	
緑藻類	イソスギナ	++	+	+++	
	ウチワサボテングサ	++		++	
	ミツデサボテングサ	+	+	+	
	センナリズタ	+++			
	ヘライワズタ			+	
	タカノハズタ	+			
	ウスガサネ	+	+	+	
	フデノホ	++		+++	
	ハゴロモ	+			
	キツネノラ	+		+	
	カサノリ			+++	
	アオサ属 SP		+	++	
	アオノリ属 SP		+	+	
	ヒトエグサ		+	+	
	モツレミル			+	
	ミズタマ			+	
	キツコウグサ			+	
	褐藻類	ウミウチワ	++	++	
		ヤバネモク			+
ホンダワラ属 SP		+++		+	
シオミドロ		++	+		
カゴメノリ			+++	+++	
フクロノリ			+++	+++	
ハバノリ				++	
オキナワモズク				+	
紅藻類	クビレオゴノリ			+	
	イバラノリ			++	
	カタオゴノリ			+	
	イソバショウ		+		
顕植物	マツバウミジグサ	++	+	++	
	リュウキュウスガモ			+++	
	ウミヒルモ	++	+		

3) 幼魚分布海域の底質

幼魚の分布量の最も多い南風原沿岸の底質を調査した。



図一〇 幼魚分布海域の底質

底質の分布状況は図一〇に示す通り、サンゴ礁帯、大礫を含む砂質帯、砂泥帯、礫を含む砂質帯に大別できる。特に幼魚の分布量の多い海域は大礫を含む砂質帯であり、夏期にはセンナリズダ、冬期にはカゴメノリ、フクロノリ等の藻場が形成される。

粒径3mm以上の礫を除いた底質の粒度組成をみるため、A線、B線を設定し、各々、最大満潮線から100m、200m、300m、400m及び、その沖合の8点を設定し、丸川式陶沙器でふるい別した。その結果を表一四に示した。